

第2回学校評議員会からの意見 ～自己評価結果から

意見・感想等		関係学部・分掌部
評価	○今年度、A 評価がでた。次の目標に向かうという前向きなエネルギーを感じる。すべてが B だと、現状維持で引き続き…と消極的な印象に見える。PDCA サイクルが動き出した感じがする。 ・目標は、1 年で達成できそうなことを立て、達成できると次の目標につながる。	全
指導	○中学部は義務教育の最終段階。その中で、何を身に着けたらよいかという考えをもつ教職員がいることが大切。共通理解とあったが、その先の共通行動へつなげてほしい。	中学部
学校理解	○保護者アンケートに「学校での活動が見えない」という意見がちらほら見られた。HP、たより、来校（機会の確保）など子どもたちの活動を見る・知る機会をさらに作れるとよい。どんどん地域や保護者に公開することにより理解が深まる。	全
口腔衛生	○歯磨き指導の取組について報告があったが、歯科受診の習慣がつくとありがたい。卒業生の中には、あきらめている人もいる。パニックや不機嫌などの原因が歯痛からきているのでは？と感ずることがある。	健康指導部
学業指導	○高等部からの在籍だと、他学部との関わりが全くなかった。小中学生や小中学部の教員など、たくさんの人と関わる経験は将来の生活に役立つ。ぜひ続けてほしい。 ○学業指導は、小中学校の学級経営でも大切な考え方。教職員同士の協力関係も構築される。続けることでいろいろ派生してくることもある。ぜひ、継続してほしい。	高等部 特別活動部
あゆみ	○変わった経緯への説明は？補足資料が必要になると教員の多忙感が増す。連絡帳で十分伝えている。スクラップ＆ビルドなど適切に対応できるとよい。	学習指導部
適正就学と伝え方	○特別支援学校は個別の対応や自立活動など支援を過度に評価されがちである。就学に関しては、言葉を選んで話したり、授業見学したりして教育の実態を伝えることが大切。	相談支援部
保護者のつながり	○在学中に同級生やクラスの保護者のつながる機会があるとよいと感じた。 ○（行政：生涯学習課）実施した研修などの感想で、講話はもとよりグループワークや研修後の懇談など同じ立場	渉外部

	の人との会話がよかったという反応があった。保護者同士がつながれるのは大切。	
伸びゆく子どもたちの作品展	○良い作品ばかりなのに来場者が少ないのが残念。より多くの人に知ってもらう工夫が必要。 ○他県では、体育館などの公共施設で常設しているところもある。人の集まるところでできるとよい。目に触れる機会を多くするとよい。	渉外部
就職	○企業は人手不足。来年４月から法定雇用率も上がる。障害者にもチャンスとなる。職場の学習を増やすと就職の機会が増える可能性も。現在行っている企業向け説明会など啓発の機会が増えるとよい。 ○卒業生情報。正社員になった。人間関係もスムーズで戦力になっている。このような人材をぜひ育ててほしい。 ○保護者向けの芳賀郡内事業所・グループホーム見学会など充実できると価値観が広がり勉強になる。先生方も是非。	進路指導部 渉外部
行事等	○思ったより今年度もいろいろなことができている。来年度は、教職員の負担感もあるかと思うが内容もより充実できるとよい。	教務部 特別活動部
その他 指導観など	○「寄り添う」について二つの見方 共時的寄り添い（今、何ができるか）と通時的寄り添い（過去どうしてきたか、将来どうするのか） 先生方は今に注目して指導していると思うが、部長あたりは、通時的な考え方が必要。 ○行動は“やっている”、と思っても行動が変わらないとやっているように見えない。 ○「一瞬で信用を失う」重さを再確認。 ○「一部の…」の意見はどの組織にもある。「指摘してくれた」とプラスに考える方が学校のためになる。	全